沖縄県医療ソーシャルワーカー協会・自主勉強会

『事例研究 ~ 実践を理論的に見る~ 』

- ・実践を事例検討から一歩進んで、事例研究として広い視野で専門的に捉えてみませんか?
- ・皆さんと事例研究を一緒に行う有意義な時間にしたいと思います。
- ・新人からベテランまで経験年数を問わず、真のソーシャルワークを身に付けたい方、 どなたでも歓迎です!

日時・場所: 2022 年 10 月 27 日 (木) 19:00~20:30

オンライン開催:ZOOM(申込後、招待アドレスを送付します)

参加費:無料

対象者:会員のみ

事前申込制:グーグルフォーム https://forms.gle/eMmAN6qcaT69gi4z6 ← クリック

申込みが切:10月24日(月)

プログラム

| 会期日時 | 内容 | 事例提供者 |
|------------------|----------|---------------|
| 10月27日 (木) 19時~ | 当日、共有します | 嘉手納泉也(大浜第一病院) |
| 12月 〇日 (木) 19 時~ | 同上 | 検討中 |

担当・お問い合わせ

樋口美智子(沖縄国際大学) 嘉手納泉也(大浜第一病院)

TEL: 098-866-5171

Google form で以下の入力をお願いします。

1. 病院名(施設名) 2. メールアドレス 3. 氏名(ふりがな)

* 参加証はございません

◎ 申し込みをされた方へ ◎

- ・ZOOM アカウントは開催前日までに皆様へ送信いたします。
- ・倫理的配慮の観点から今回より原則として配布資料はございません。
- ・会の最中においても事例を特定することができない倫理的配慮を必ず行います。
- ・メールアドレスは正確に記載をお願いいたします。*勉強会目的以外には使用しません。
- ・「一緒に行う」をコンセプトにしているため、音声は適宜使用します。可能でしたらビデオは ON でお願いします。また、指名してコメントをお願いする場合があります (パスも可能です)。

◎ 基本的な考え方 ◎

事例研究とは、

- ・実践活動を通して現実を構成している本質構造の解明および研究であり、仮説がある。
- 「●●のような支援をすれば、△△のようなメカニズムによって、■■のような結果になる」。 以下を含むこと。①実践的目的(クライエントの生活課題に対する対処能力向上と社会資源活用を 支援するなど)、②倫理基準を満たす、③独自性、④時間軸および時系列的変化、⑤理論的考察。

事例検討とは、

・報告された個別事例の情報を集めてアセスメントをして、解決策を考えること。 事例提供者の課題解決の方法の検討および実践力向上に重きをおく。参加者も同様にアセスメントの 視野が広がり、「クライエントの理解」や「自己流の点検」ができ、仲間の存在に勇気づけられる。

○ 予備知識○

※ソーシャルワーク」: CL の「生活課題」に対する「対処能力(生きる力)」の向上を支援し、「社会資源」の活用を支援する。必要に応じ「環境(ミクロ・メゾ・マクロ)」の「応答性(ニーズに応える)」の向上を支援する。・Harriett M. Bartlet(1970)/Carel B. Germain(1973)/Allen Pincus & Anne Minahan(1973)/Zofia T. Butrym(1976)/Dean H. Hepworth(1997)

- **※「生活課題」**: 生活する上で達成・克服・解決しなければならない課題(Harriett M. Bartlet ,1970)
- ※「対処能力」: 現実認識能力・対人関係能力・自尊感情 (DiMatteo & Martin, 2002)
- ※「社会資源」: インフォーマルな資源(家族・親族・近隣)・フォーマルな資源(自助グループ等)・社会的資源(機関・施設・制度)

(Allen Pincus & Anne Minahan, 1973)

※「応答性」: 受けとめる・ニーズを満たす

(Carel B. Germain, 1980)

※「エンゲージメント」: ジェネラリスト・ソーシャルワーク (ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワーク)・プロセスの第一段階 <1984 年より米国のソーシャルワーク教育カリキュラムから、3 方法 (ケースワーク[インテーク]・グループワーク・コミュニティワーク)の概念が消え、ジェネラリスト・ソーシャルワーク教育が導入された>

出典:富樫八郎(2022.9.22)「県MSW協会自主勉強会」配布資料より。一部、文字・配置等変更